

第11回 全国少年少女チャレンジ創造コンテスト ルールブック

1. コンテストテーマ

からくり機構を使った作品のパフォーマンスで観客を楽しませよう！

1-1 創作物

PRしたいテーマをからくり動作によって表現する「からくりパフォーマンス作品」を製作する。

- ★作品は、2台以上の製作物で構成すること。
- ★各製作物は、からくり機構を備えること。
- ★製作物のうち最低1台は有線遠隔操作による移動制御が可能な「移動体」とすること。
- ★他の製作物は移動機能の搭載は自由とする。静止位置でからくりを行う製作物も可。

1-2 作品の仕様

① 大きさについて（チームメンバーだけで運搬可能な範囲とすること）

- ・各製作物の大きさ：50cm（長さ）×30cm（幅）×50cm（高さ）以内
なお、スタート後の拡大、縮小、分離等は認められる
- ・各製作物の重さ：自由

② 部品について

- ・支給する基本材料：

A	モーター付ギヤボックス（2式）	D	自在Lプラ（4ヶ入）
B	タイヤ（4本）	E	シャフト（1本）
C	シャーシ用プレート（1枚）		

- ・使用できる材料：自由

③ 動作制御について

【移動体について】

- ・移動体の操作は、必ずメンバーが行うこと。メンバー1人が移動体を操縦し、それに製作物を連結させるパフォーマンスや、メンバー全員が移動体を用意し、それぞれ操縦を行うパフォーマンスなど、表現方法は自由とする。

【からくり機構の動作制御について】

- ・移動体ではない製作物がからくりパフォーマンスを行う場合の起動方法は、原則、移動体との接触によるものとし、無線による遠隔操作は不可とする。
- ・ただし、センサースイッチ、または、チーム員によるパフォーマンスの一環としてのスイッチ起動は認める。

（例）遠隔地からリモコンを使用して起動スイッチを入れる ⇒ **NG**
移動体から光を照射し、光センサーにより起動スイッチを入れる ⇒ **OK**
チーム員が犬型の製作物の頭をなでると製作物が作動する ⇒ **OK**
正常に起動しないため、チーム員が起動スイッチを入れる ⇒ **NG**

【禁止事項について】

- ・火気（花火・クラッカー等）、燃料・ガス、リチウムイオン充電電池の使用は不可。
- ・キャラクターや商標等を利用する際は、必ず事前に権利者の許可を得ること。

④ 作品検査

大会当日、審判による作品の大きさや制御機構等の仕様に対する検査を行い、この作品検査に合格した作品に検査合格ステッカーを配布する。なお、不合格の場合は修正後、再検査を受けることができる。

- ・検査に合格したチームは、作品に合格ステッカーを取り付けること。
- ・検査後に重さや大きさ（静止状態）、構造等の仕様を変えることはできない。
- ・不合格の作品も競技に出場できるが、参考出場となり評価の対象とはならない。
- ・検査合格後に作品の整備・修理を行えるのは選手のみ。

2-3 チーム編成

チームメンバーは小学3年生から中学3年生までの2～3名とする。

- ① キャプテンを1名選出し、キャプテンはチームを統率すること。
- ② キャプテン以外のメンバーもパフォーマンス時に役割を持つことが望ましい。

2-4 競技エリア仕様

全国大会の競技エリアの仕様は、以下の通りとする。

- ・競技エリアの大きさ：8m（長さ）×3m（幅）
- ・競技エリアにタイヤのスリップ防止用に床シートを貼る。

メーカー：東リ株式会社

製品名：TM フロア（織布積層発泡ビニル床シート）

仕様：厚み：3.0mm、幅：1.82m

色：濃いグレー



※地区大会においては、上記の競技エリアの大きさ、スリップ防止用の床シートについては、地区事務局の任意とする。

2-5 コンテスト内容

① 実演（制限時間：1 分間）※地区大会・全国大会とも

i) 移動体は競技エリア内（8m×3m）を移動しながらからくりパフォーマンスで観客を楽しませる。

ii) 選手は、実演しながら作品の工夫点やパフォーマンスの内容等を実況やPRをする。

※実演に際してのBGMは使用不可とする。

iii) パフォーマンスは以下の制限時間以内で行うこと。

【準備：30 秒】

- ・スタート時、予めコース内に製作物を配置する。
- ・スタート位置に着いてから 30 秒以内に競技開始に至らない場合には、実演順を最後に移す。実演順の変更は 1 回まで認めるが評価に影響することがある。

【競技：60 秒】

- ・移動体は、審判の合図により移動を開始する。
- ・移動体はコースエリア内を自由に移動でき、直進以外の蛇行、逆走、回転等の移動も認められる。
- ・移動体や他の移動体の移動ルート、および他の制作物の配置位置を考慮してコースエリア全体を活用することが望ましい。
- ・パフォーマンスには選手の動き（音声も含む）を含めてもよい。
- ・演出の一環であれば作品に触れてもよい。ただし、からくりの起動や操作の不具合修正の目的では作品に触れてはならない。

【撤収：15 秒】

- ・演技終了後は、作品を撤収し、コースエリア内には何もない状態にすること。

【パフォーマンスのイメージ】



② 作品プレゼンテーション（制限時間：1分間） ※全国大会決勝では必須。

実演に先立ち、作品の工夫点や内部構造、からくり機構を紹介する動画を用いてからくりパフォーマンスの概要をPRする。

※作品紹介動画は事前に作成しておくこと。なお、地区大会でのプレゼンテーションは必須ではない。

2-6 評価方法

① 客観審査（審判による評価） ※50点満点、ただし減点法による

【作品構造等違反の有無（作品検査）】

・各製作物の大きさ	50×30×50cm	不合格の場合	－10点
・移動操作機構	有線制御のみ可	不合格の場合	－10点
・からくりの動作制御	無線による遠隔操作は不可	不合格の場合	－10点

【制限時間オーバーの有無（全般）】

・準備時のタイムオーバー	－5点
・競技時のパフォーマンス	－10点
・撤収時のタイムオーバー	－5点

【禁止行為の有無（競技）】

以下の禁止行為を行う都度、 －5点／回

- ・パフォーマンスは、競技エリアを外れてはならない。
- ・演出以外の目的でチーム員が作品に触れてはならない。また、有線コードで引っばる、棒で押すなど有線遠隔操作以外の方法で、製作物を移動させてはならない。
- ・競技エリアに残留物を残してはならない。
- ・前後チームのパフォーマンスを妨害、遅延させる行為をしてはならない。
- ・故意に他チームのからくりパフォーマンスを妨害したり損傷を与えてはならない。
- ・作品は会場やコース、観客等に損傷を与えてはならない。
- ・参加者は他の参加者に配慮し抑制のきいた行動をすること（会場を走らないなど）。
- ・指導者（教師、指導員、保護者その他の大人のチーム関係者）はチームの競技エリアに立ち入ることはできない。
- ・指導者は作品の修理を手伝ってはならない。

※全てのチームはフェア（公平）でクリーン（公正）な態度で競技にのぞむこと。

②主観審査（コンテスト委員による評価） ※50点満点

以下の評価項目毎に10点満点

- ・からくりパフォーマンスによって観客の興味・関心を引くことができたか
- ・紹介したいテーマを的確（※1）にパフォーマンスとして表現していたか
- ・作品の仕組や動作機構に工夫点が認められたか
- ・作品の動作内容やからくりの起動方法等に独創性が認められたか
- ・作品紹介（実況（※2）、プレゼンテーション（※3））が工夫点の説明としてわかりやすかったか

- ※1 作品の動作内容や台数、チーム員の役割が適正であったかを評価する。
- ※2 予選コンテストにおいては、からくりの動作状況について実況説明を行うことができる。
- ※3 全国大会決勝戦においては、実況説明及びプレゼンテーションを行う。
なお、プレゼンテーション（60秒以内）では、作品紹介動画（30秒以内）の投影とチーム員による補足説明を行う。
全国大会出場チームは事前に作品紹介動画を準備しておくこと。
作品紹介動画は、作品の動作機構や内部構造の工夫点等を説明したものとする。

2-7 競技進行の停止

競技に影響を与える事態が生じた場合、審判員の裁量で競技を停止することができる。

2-8 ルールの解釈、変更

- ① ルールの解釈についての説明は競技中でも必要であれば事務局によって行われる。
- ② 製作物に予想外の問題が生じた場合は、審判員又はコンテスト委員協議の上、競技中であっても必要に応じてルールを変更することがある。（公平性、危険の回避など）

以上